



トルコへの出発前に健闘を誓う選手たち(7月14日、成田空港で)

みなさんはデフリンピック(時事ワード6級)を知っていますか? 4年に1度開かれる、耳が聞こえない人(ろう者)たちの国際スポーツ大会です。夏と冬の大会があり、今年(今年)は夏の大会が18日にトルコで開幕。五輪やパラリンピックに負けない、選手たちの熱い戦いに注目です!



デフリンピックの特徴

審判やスタッフ、外国の選手とのコミュニケーションは国際手話を使う

競泳や陸上競技のスタートは、ランプが「位置について」「用意」「スタート」ごとに違う色で光る



バスケットボールでは、審判の笛の代わりにゴールのバックボードが光ったり、審判が旗を振ったりする



手話で作戦を話し合う宇賀耶主将(右から4人目)と選手たち

女子バレー「目標は金メダル」



DEAFLYMPICS

デフリンピックのロゴマークは、全日本ろうあ連盟提供。ろう者のデザイナーが考えました。「OK」や「GRREAT」(すばらしい)を意味する手のサイン写真を四つ重ねています。デフリンピックを表す手話の一部としても使われています。

これまでの大会で、すばらしい成績を誇る女子バレーボールです。2001年に初優勝し、その後も銀メダル二つ、銅メダル一つを取っています。最大の武器は、ねばり強い守

競泳も多くのメダルが期待されます。金持義和選手(23)は写真IIは4年前、50メートル背泳ぎで世界新記録を出して優勝しました。100メートル、200メートルでも2位と大活躍。「厳しい戦いになりそうだけど、今回も必ず金メダルを取る」と意気込んでいます。

障害持つ子に勇気を

競泳・金持選手



えなくなりました。学校ではなかなか友達ができませんでした。水泳教室では泳ぎを通じ、ライバルたちと仲良くなれたそうです。「大会で活躍して、障害を持つ子どもたちを勇気づけたい。デフリンピックをもっと盛り上げるためにも、ぼくたちが結果を出す」と誓いました。

これだけの大会で、すばらしい成績を誇る女子バレーボールです。2001年に初優勝し、その後も銀メダル二つ、銅メダル一つを取っています。最大の武器は、ねばり強い守

備です。誰がボールを取るかなど、試合中のとっさの判断は、選手同士が目合わせて瞬時に感じとるそうです。主将の宇賀耶早紀さん(26)は「ろう者は、普段から目を合わせてコミュニケーションをとっているで、特別なことではありません」といいます。

デフリンピックは1924年に始まりました。障害のある人たちのスポーツ大会として60年に始まったパラリンピックより、歴史の古い大会です。

パラリンピックがおもに身体の訓練を目的としていたのに対し、デフリンピックは当初から記録を重視していました。スタートや審判の合図を目で見てわかるように工夫しているほかは、五輪と同じルールです。そうした方針の違いなどから、今も別の大会として続いています。

しかし、日本ではデフリンピックを知っている人は多くありません。2007年の国の調査では、パラリンピックを知っている人は94%でしたが、デフリンピックはわずか3%。五輪やパラリンピックのように、多くの人に知られてほしいですね。

パラリンピックよりも古い歴史